

■平成13年秋、運転開始

浄法寺町・稲庭岳のふもとに広がるなだらかな稲庭高原。この一角に、県が建設を進めていた風力発電所がこの秋、運転を開始します。高原一帯に吹く風は年平均で6.7メートルと風力発電に適しており、この風を利用して発電します。3基の風車による総発電量は年間約600万キロワット時、一般家庭およそ1,800世帯で消費される電力量に相当します。

■環境にやさしいクリーンエネルギー

現在、わが国で消費されているエネルギーの約7割は、石油、石炭などの化石エネルギーが占めています。しかし、今日のように化石エネルギーの使用が増大すると二酸化炭素、窒素酸化物などによる大気汚染や地球温暖化が進み、生態系への影響も心配されます。また、石油エネルギーはあと40数年で枯渇するとも言われています。

限りある資源を有効に使い、地球環境を守るためにも、環境への負荷が小さいクリーンエネルギーの開発、導入が求められています。

■地域特性を生かしたエネルギーを導入

昭和41年に日本で初めての地熱発電所である松川地熱発電所が運転を開始するなど、本県では早くからクリーンエネルギーの導入が進められてきました。現在、県内12カ所の県営水力発電所で県内一般家庭の4割弱、約17万世帯で1年間に消費される電力量をカバーしているほか、太陽光発電、風力発電、農林業の副産物を発電や燃料に利用したバイオマスエネルギー、地中熱の利用など、地域の特性を生かしたクリーンエネルギーを導入しています。

県総合計画に掲げた本県の将来像の一つ「自然と共生し、循環を基調とする社会」の実現を目指し、県では、これからもクリーンエネルギーの導入を積極的に進めていきます。

高原の風をクリーンなエネルギーに

「稲庭高原風力発電所」 運転開始

県政
プロジェクト

県内の主なクリーンエネルギー導入例

エネルギーの利用形態	主な施設	出力
水力発電	県営発電所（12カ所、出力合計140,150kW）をはじめとして県内に39カ所	計269,055kW
地熱発電	松川地熱発電所（松尾村） 葛根田地熱発電所（聖石町）	23,500kW 80,000kW
太陽光発電	県先端科学技術研究センター（盛岡市） 県営屋内温水プール（聖石町） 県環境保健研究センター（盛岡市） 北上中部工業用水道事務所（北上市） 県立美術館（盛岡市） I-DOME（一関市） 葛巻町立葛巻中学校ほか6校	20kW 20kW 20kW 20kW 30kW 20kW 150kW
風力発電	東稲風力発電所（平泉町） 袖山高原風力発電施設（葛巻町） 稲庭高原風力発電所（浄法寺町・平成13年秋運転開始）	490kW 1,200kW 1,980kW
地中熱利用	県環境保健研究センター（盛岡市：地中の熱を展示室の冷暖房に利用）	—
バイオマス発電	北上川上流域下水道都南浄化センター（盛岡市：汚泥処理で発生するガスを発電に利用）	135kW
廃棄物発電	盛岡市クリーンセンター（盛岡市：ごみ処理の焼却熱を発電に利用）	1,500kW

稲庭高原風力発電所の概要

- 発電所位置：浄法寺町大字大清水字山内地内（高曲原放牧地内）
- 総出力：1,980kW（660kW×3基）
- 発生電力量：年間約600万キロワット時（一般家庭約1,800世帯分）
- 平成13年秋運転開始

